



菅波 茂

2000.9.14

旭町には春になると、山全体が桜に包まれる三休公園がある。三休公園から西を望むと、山々の谷間を悠々と流れる旭川が目に入り、その情景は唐の詩人が描いた超一級の光景に引けを取らない。この三休公園の頂上に「民話館」がある。民話は幼い心に想像力を与えてくれる。月に米国の宇宙飛行士が着いたというニュースがあっても、竹取物語のお姫様が育ててくれたおじいさんとおばあさんに形見を残し、月に帰ったという子ども心に残った感動は少しも変

わらない。

「三つ子の魂は百歳になっても変わらぬ」ということわざは本当だろう。民話や童話の良さは人間関係のあるべき姿を

## アジアの民話館

さまざまなお例えの中で分かりやすく、美しく、理想的な物語にしていることである。子どもたちに想像豊かな民話、童話を話してやるのは大人の義務だと思ふ。

民話はすべての民族が文化として持っている教育の方法論である。たくさん民族がアジアには住んでいる。それぞれの民族は「月」を例にして、どのような物語を子どもたちに残してい

るだろうか。何を教えようとしているのだろうか。ベトナムの海洋民族であるチャム人は。あのアンコールワットを築いたクメール人は。日本の米の源流といわれる中国・雲南省の少数民族は。言葉は違っても、着るものは違っても、子どもたちに教えたいことは、父として母として共通性があるはずだ。

旭町の青野町長さんは三休公園頂上の「民話館」を「アジアの民話館」として、インターネットに「民話の動画の世界」を再現して世界に発信する夢を実現されんと燃えておられる。AMDAもぜひともお仲間に加えていただきたい。

(アジア医師連絡協議会代表、  
題字は筆者)